

# 平成27年度 学校評価全体計画

学校評価委員会

## 1 目的

きのと小学校では教育目標具現のための「知・徳・体」の重点目標を下記の3つに設定した。

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| [知] | 「分かった」「できた」を実感できる子ども |
| [徳] | 共に活動し、互いに認め合う子ども     |
| [体] | 自分の健康に関心をもち体をきたえる子ども |

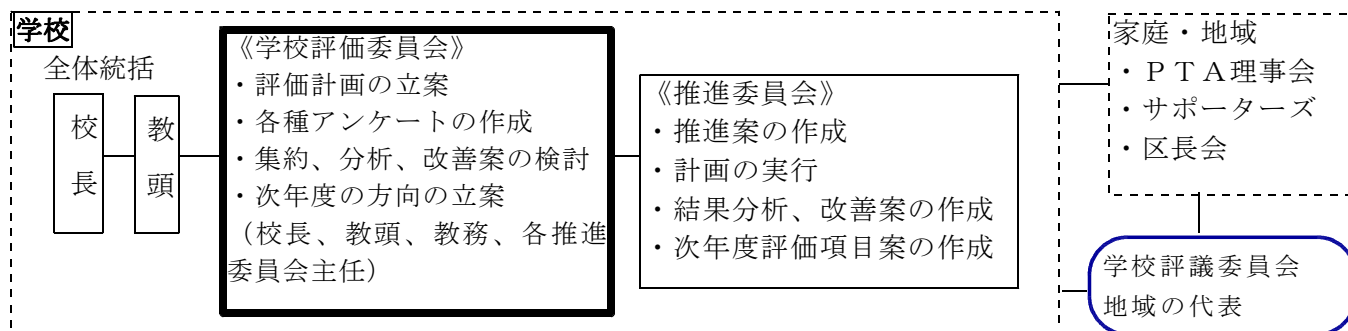
後日「きのとプラン」(グランドデザイン)を全体構想はに示す予定である。

これらの取組について自己点検・自己評価・学校関係者評価を行い、改善を加えていくことが、子どもたちに「生きる力」を育んでいく。学校評価を積み重ねることで、教育活動の改善につなげていく。

## 2 基本的な考え方

- (1) 学校改善につなげる⇒学校評価システム(PDCA)サイクルを定着させる。
- (2) 客観的な評価を行う⇒数値目標等の導入。保護者、児童の評価も参照する。
- (3) 「計画・実行・評価・更新」過程毎に情報を提供し、説明責任を果たす。
- (4) 家庭や地域対して常に分かりやすい説明を心がけながら、連携を深めた取組を行っていく。


## 3 学校評価委員会組織図



この一連のサイクルを活かし、次の活動へとつなげていく。

## 4 評価方法等(◎については、職員会議等で協議) ・中間⇒1学期末 ・学年末⇒主に2学期末

	名称・評価者	取組内容	時期	担当
自己評価	推進評価(職員)	◎各推進委員会の取組(成果、教育活動、運営活動)について、児童の実態や職員の評価、推進アンケート(児童、保護者)をもとにして、自己評価する。	・中間 ・学年末	各推進委員会 学校評価委員会
	行事評価(職員)	○全校にかかわる行事について、実施後1週間以内に反省用紙を回収し、2週間以内に集約と改善点を提示する。	・行事毎	各担当
	学校教育評価(職員)	◎学校教育全般について、アンケート等を参考にして評価する。	・中間 ・学年末	学校評価委員会
	教員評価	◎職員の職務意識・対応について、個々の取組について自己点検する。	・中間 ・学年末	教頭
	児童評価	◎推進アンケート、学校生活アンケート・QUテスト等を実施し、児童の学校生活の満足度や自己評価の結果から教育活動の改善点を探る。	・中間 ・学年末	学校評価委員会 生徒指導部
	保護者評価	◎学校教育全般について保護者にアンケート(自由記述を含む)を実施し、その結果から教育活動の改善点を探る。	・学期末	学校評価委員会
関係者評価	学校関係者評価(学校関係者評価委員会)	○目標の達成状況や取組の状況、取組の適切さなどについて評価してもらい、その結果から教育活動の改善点を探る。広く地域に向けて情報を発信する。	5月 10月 2月	学校評価委員会

月	過程	取組内容	学校関係者評価	外部への情報
4	 計画	◎きのとプラン（知・徳・体）の協議、共通理解（職員会議） ・成果、教育活動、運営活動の評価項目及び評価基準の設定 ・その他の主な取組、学校評価計画の設定	第1回学校関係者評議委員	○きのとプラン公表 ・教育活動説明会 ・学校評価たより ・ホームページ上での公表（随時更新）
5		<b>各教育活動、運営活動の具体的な計画立案、実施</b>		
6	実行 ↓	○中間評価の方法の検討（職員会議・学校関係者評価委員会）	第2回学校関係者評議委員	・前期学校評価の結果公表
7	 評価	○中間評価の実施 ・推進（職員、児童、保護者） ・学校運営全般に関する評価（職員） ・児童、保護者アンケート ・Q-Uテスト（児童）		
8	↓	○前期評価の分析、改善案の作成（各推進部） ○前期評価の分析、改善案の協議、共通理解（職員会議）		
9	更新			
10		○後期評価の方法検討（職員会議） ○後期（年度末）評価の実施 ・児童、保護者アンケート ・Q-Uテスト（児童）		
11	評価			
12	↓	○後期（年度末）評価の分析 改善策の作成（各推進部） ○後期（年度末）評価改善策の協議、共通理解（職員会議）	第3回学校関係者評議委員	・後期学校評価の結果公表 ・教育活動説明会 ・学校評価たより
1		○次年度の評価項目の検討、作成（各推進部） ○次年度の「きのとプラン」案の作成（学校関係者評価委員会）		
2	↓			
3		◎次年度の評価項目「きのとプラン」の協議 ○次年度の教育計画案の作成（各担当）	・自己評価結果の説明 ・次年度の方向性説明 ・学校関係者評価報告書提出	